

2024年度行動計画及び実績

(破線内は第3次中長期経営計画を示す)

【基本方針】 次代を拓く選ばれる大学へ、さらなる発展を一丸となって実現する

- ・次代を担う「テクノロジスト」を育てる
- ・誰もが知る、社会・産業界・地域に貢献する大学になる
- ・学生が希望を持って学び、教職員がやりがいを持って働く元気な大学になる

【めざす姿】
日本の未来を担う『生き抜く力』『たくましい知性と実行力』
を身につけたテクノロジストを育むたくましい大学になる

最優先取り組み

【我々の行動目標・信条】 未来をつくるために我々は変わる

- ・大学の独自性と魅力を共有し、全員で発信する
- ・危機感、あるべき姿、将来の夢を語り、全員で共有する
- ・改善の意識を持ち、変えること・やめることを恐れない

*年度末評価：4段階
◎：目標達成＝積残し等無し
○：概ね達成＝積残し無又は発展的課題
△：進捗途中＝継続が必要か記入
×：進められていない＝継続が必要か記入

2024年度実績

大項目	小項目	目標	2024 行動計画	リーダー	推進 部署	KPI・目標値	KPI達成 状況	年度末 評価	年度末の進捗状況(見込み)	残した課題/今後の取組み
1. 次代を担うテクノロジストの育成										
(1) テクノロジスト育成教育 の進化	○「志」「たくましい知性と実行力」「真摯さ」を備えたテクノロジストの育成	1)3つのポリシーとアセスメントポリシーによるPDCA ①フェーズゲート ②退学者対策 ③カリキュラム見直し	澤本 大垣 鎌澤	経営企 画本部 教務課	・必修科目合格率：100%	△	○	①実施を開始 ②IRデータを活用し分析、必修科目合格率89.5%(1Q2Q) ③主専攻コースの単位数および基礎インターンシップの必修化を見直し	②教務システム更新に伴い合格率の洗い出しが困難③新学科設立に伴う両学科のカリキュラムの見直し	
	○テクノロジストを育てるオンリーワンの教育プログラムの企画・展開	2)教養、学際、新技術分野等の教育充実 ①数理・AI教育 ②留学生就職支援・日本語教育 ④渋谷QWS活用			・留学生日本語科目単位取得率80% ・渋谷QWSでの講演会3～6回開催	○	○	①プログラム採択 ②留学生日本語Ⅰの単位数取得率100% ③講演会を3回実施	①オープンバッチ配布の検討 ②留学生日本語Ⅱ新設 ③契約解除	
	○時代と社会の要請に応える教育分野の再構築	3)課程制等の検討			・改組構想に対する外部評価での支持率向上	○	○	新学科設立について教職員と意見交換、教員公募に着手、リーフレットの作成開始、カリキュラムの確定予定。産業界等へのヒアリングを3社(者)実施し、概ね良好	アンケートの開始、届出書類の作成、事前相談	
(2) 学生のキャリア形成と 学生生活のサポート	○入学前から卒業後まで、経済面を含めたサポート	1)「大学の教育に関するアンケート」を卒業生向けに実施	高橋 大藤	学生課	・就職率 ・就職満足度	○	○	アンケートを実施し9月常任会において報告済。卒業生の回答は20件。	次年度も継続実施予定。	
	○学生・卒業生の評価をフィードバックし、サービスの質向上を継続推進	2)段階的なキャリア形成サポートプログラムの充実			・卒業時アンケート満足率	○	○	1年次から社会人基礎力育成講座を実施、学年に沿ったキャリア教育を行っている。	次年度も継続実施。	
		3)きめ細やかな対応による就職満足度および就職率の向上				—	—	各種就職セミナーやカウンセリングを実施。	次年度も継続実施。	
		4)機構奨学金制度等を全学生に周知し、経済面をサポート				○	○	機構奨学金について、4月と9月に説明会を実施済。	2025年度多子世帯の授業料無償化に向けて、情報発信の徹底。	
(3) 大学の魅力創造と発信 で選ばれる大学へ	○高校生や保護者への広報	1)高校生や保護者への広報戦略を策定し、スピーディに実行 ①学生広報スタッフを募集、高校生向けSNS対策 ②各種メディア対策 ③WEBサイトの見直し	大垣 久力 福地 大塚	企画 広報課 教育連携 推進室	KGI目標値 ・年内入試270名 ・入学者数300名	△	△	計画通り実施したが入学者目標未達 ・学生広報スタッフ7名を採用 ・FM NACK5で学生出演コーナー6回 ・HP動画下に入試関係バナー設置	・動画配信中心の広報戦略へシフト ・学生広報スタッフの効果的な活用 ・メディアの取材を増やす ・ユーザビリティ調査の実施	
	○ものづくり教育のすばらしさを伝える営業展開	2)ものづくり教育のすばらしさを伝える営業展開でOCに集客 ①学生出身高校に訪問 ②5分で説明できる資料作成 ③その他			・HP新着300件 ・SNS600件 ・HPユーザー数22万件	△	△	・HP新着掲載件数326件(2/19時点) ・SNS投稿件数 660件(2/19時点) ・HPユーザー数22万6000件	・教員による近隣私立高校訪問強化 ・入試参与のモチベーション向上 ・HPにおける学生募集関係強化	
	○教育連携関係[連携協定20校]からの展開	3)教育連携関係[連携協定20校]からの着実な展開 ①探究の授業協力での知名度向上 ②連携校見学会を開催			・連携先からの意見聴取	◎	○	①2025年度新規協定校12校(全体29校) ②探究に係る2講義を全協定校に配信 ③生徒対象3校、教員対象1校、県立総合教育センター職員に実施 ・大学見学や出前授業の大幅増加	協定校意見交換会で示された6つの要望のうち4つは実現済み、単位認定は実現に向けて進捗中。	
	○入学率向上するOCに見直し	4)入学率が向上するOCに見直し ①OCの改善・施策実行 ②スペシャルディ設定			・オープンキャンパス参加者数 ・参加者のアンケート調査 ・教職員からの意見収集	△	△	計画通り実施したが入学者目標未達 ・OC参加者は微増に留まる ・教職員、参加者の意見集約不十分	OCの内容充実(教職協働を一層深化させた企画内容に変更	
	○今年度入試対策 & 来年度入試制度改革	5)今年度入試対策 & 来年度入試制度改革 ①指定校復活等 ②入試制度の紹介・PR強化 ③入試制度改革 ④編入学対策の強化(高専、専門学校)			・年内入試受験者数	△	△	計画通り実施したが入学者目標未達 ・年内入試は昨年度より微増 ・学黒人留学生が増加	私学普通科、特別指定校への年内入試戦略強化	
2. 社会・産業界・地域ニーズに応える教育・研究										
(1) 社会・産業界・地域の 課題解決に向けた取組み	○社会課題解決に向けた産官学・地域連携の推進	1)重点分野における企業・自治体等への戦略的な提案活動	荒木 眞鍋	もの研	・提案件数 10件	○	○	提案件数10件	今後は産官学の共創プラットフォーム構築に向けた提案に注力	
	○多様な企業・大学等との教育・研究分野における連携の推進	2)連携協定等に基づく具体的な取組の開始と情報発信			・連携開始件数 5件	○	△	連携開始件数5件、一部単発的な取組	単発ではなく継続的な取組と情報発信を行う疑似センターの設置を計画中	
(2) 産業界等の人材育成 ニーズに応える生涯教育	○企業との持続的関係を構築するパートナーシップ型産学連携の推進	1)企業への組織的な提案活動と仕組みづくり	荒木 眞鍋	もの研	・新規講座数 3講座	○	○	2025年度卒業研究テーマの募集スタート	定着化に向けた継続的活動	
	○産業界のニーズに対応した社会人教育プログラムの提供	2)新たな社会人教育プログラムの企画開催				○	○	産業用ロボットやモジュール化など新規3講座実施	本学の特徴を活かした産業界向けの人材育成講座に注力	
3. 強くてしなやかな組織による大学運営										
(1) スピード感のある執行体制 の構築	○機動力のある経営・運営を支える企画機能の強化	1)経営企画本部による新たな提案の実行と体制づくり	小塚 窪田	総務課	・会議出席者工数	—	○	経営改革プラン、産学共創強化プラン提案	プラン実行に向けた体制づくり	
	○会議体の見直しと運営の効率化を継続的に実行	2)会議の設定・運営についての改善の仕組み検討、実施				—	○	会議工数設定▲30%提案どおり実施	特になし	
	○内部質保証による透明性のある大学運営とガバナンス強化	3)私学法改正に伴う寄附行為改正、法人組織の体制づくり				—	○	概ね達成	2025年度の理事・評議員の新体制発足準備およびフォロー	
(2) やりがいのある職場づくり	○危機感と将来の夢、方向性の共有	1)行動計画の進捗状況の定期確認、優先度を踏まえ対応提案	小塚 窪田	総務課	・廃止業務件数 ・健康診断高ストレス者数	—	△	中間、期末確認のみ実施	重点項目はさらなるフォロー必要	
	○業務の見直しとDX活用による不断の改善	2)決裁ルートの見直し、業務の停止・統合・簡素化・効率化の改善				—	△	旅費関係の決済方法改善	業務簡素化・効率化の他業務への展開	
	○新たな施策や業務の改善を提案、実現できる人材育成	3)FSD充実、人材育成計画、職場環境を活性化する仕組みづくり				○	△	高ストレス者減、事務員人事面談全員実施	活性化に向けた仕組みの提案が必要	
		追加)システム変更での課題整理・対応検討・実施				—	△	作業時間増を運用面での対応でしのいだ	業務フローの簡素化と合わせたアイデア提案が必要(業務コード、科目コード集約等)	
(3) 未来キャンパスプランと 持続的な財務計画の策定	○未来キャンパスプランの策定	1)施設の新設と修繕等に関する2024キャンパス整備計画作成	三原 大塚 窪田	総務課	・事業活動収支差額	△	△	メンバー構成、方向性の共通認識の確認	実施可能な具体的案作成と概算予算の算出	
	○中長期施設・設備計画のブラッシュアップ	2)マスタープラン2040のブラッシュアップと財務との連携			・教育研究経費比率等	○	○	計画通りのプラン実施。追加要望事項に関しても計画前倒しを予算内で実施	計画との差異の調整/予算状況勘案での計画修正	
	○経営計画と連動した財務計画の作成	3)ファシリティマネジメントの徹底した実施と良いあり方の追求			—	○	他機関の情報入手と学内計画への反映実施	授業への反映と実施/学生を含めたFM実施		
		4)MONO BASEの開設と充実運営			—	△	HP作成、予約システムの準備 各機器の操作マニュアル整備	学内外向け講習会の実施 外部利用向けの体制整備		
		5)支出を抑制する財務改善案を検討			—	△	大幅な予算削減を実施。併せて運用面での節減を図る。	運用面での節減。2026年度に向けた予算削減の準備。		